

令和 2 年 6 月 24 日現在

機関番号：32708
 研究種目：挑戦的萌芽研究
 研究期間：2016～2019
 課題番号：16K13128
 研究課題名（和文）ケニア都市部における人々の移動史と居住環境に関する民族誌デジタルアーカイブ研究

 研究課題名（英文）Ethnographic Digital Archive Study on Migration History and Living Environment of People in Urban Area of Kenya

 研究代表者
 野口 靖（NOGUCHI, Yasushi）

 東京工芸大学・芸術学部・教授

 研究者番号：50287869
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：【地域住民のライフストーリー映像作成】 住宅環境と居住者の幸福度の関係性を観察するため、ナイロビのスラムに住む住民A、埼玉県秩父に住む住民B、スウェーデンのストックホルムに住む住民Cに対して、日々の暮らしぶりや家族との関係性についてインタビューを行った。この映像はそれぞれ27分程度のドキュメンタリーとしてまとめ、さらに住宅の各部屋を360度パノラマカメラで撮影した。
【メディアアートのアプローチによる展示】 住民A及びBの映像は映像インスタレーション展示を行った。映像はプロジェクター投影し、部屋を撮影した360度パノラマ写真は、タッチモニターを使用して、体験者が操作できるようにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

【地域研究、文化人類学、メディアアートの融合】

地域研究と文化人類学は元来相互関連性が高いが、これらの分野とメディアアートは一見関連性がないように見える。しかし、地域研究や文化人類学の研究成果を専門家だけではなく研究の方法論、技術や視点の異なるアートやデザイン分野、地理学、情報学、建築学などの分野と接続しより豊かなものとするためには、メディアアートの特徴であるインタラクティブティや先進映像技術は有効である。また、メディアアートが単に新技術の紹介だけに終わらずに真に社会的意義を獲得するためにも、地域研究や文化人類学との融合は必須である。

研究成果の概要（英文）：【Creating a Life Story Video of Local Residents】 To observe the relationship between the housing environment and the well-being of residents, we interviewed residents A living in Kawangale, Nairobi (Kenya), B living in Chichibu, Saitama Prefecture, and C living in Stockholm, Sweden about their daily lives and the relationships with their families and so on. Finally, each of these videos became a 27-minute documentary video. In addition, each room in the house was shot with a 360-degree panoramic camera.

【Exhibition with Media Art Approach】 The documentary movies of residents A and B were exhibited as a video installation. The movie was projected by a video projector, and the 360-degree panoramic pictures of the rooms were designed to the users to operate them freely using a touch monitors.

研究分野：メディアアート

キーワード：文化人類学 映像人類学 データ可視化 デジタルアーカイブ ライフヒストリー ケニア ナイロビ スラム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

地域研究や文化人類学の研究成果発表は多くの場合論文や口頭発表という形をとっており、利用される記録媒体も写真やビデオ等に限定されている。また、人類学や地域研究において調査地での調査結果を現地の人々に対してどのように報告、共有すべきかという議論もある。

これらの問題の解決策として、高解像度ビデオカメラ、3D(三次元)スキャニング、360度全方位パノラマ映像等の先進的映像メディア利用や作品と体験者の相互作用性(インタラクティブティ)を活用することにより、識字率に関わらず五感によって調査地の人々と調査内容を共有できる可能性がある。

2. 研究の目的

本研究は、急速な都市化が進む東アフリカ・ケニアにおいて、その都市部における住民の住環境調査および移住要因と移住過程の聞き取り調査を行い、それらの調査結果をメディアアートのアプローチによってデジタルアーカイブ化することで人々の移動と住環境に焦点を当てた社会変化を抽出する。さらに、人々の生活文化の歴史的記録の保存および公開による調査地への社会的還元を行う。

本研究はソフトウェア/メディアアートの専門家と人類学者の共同研究により、ケニアを舞台とした地域研究、人類学、地理学、歴史学、メディアアート、建築学等の多様な分野にまたがった研究成果を、積極的に統合発展するプロジェクトである。

3. 研究の方法

- (1) ナイロビのスラムにおける住環境調査及びデジタルアーカイブ化
ナイロビの多様なスラム地域において3Dスキャニング、360度全方位パノラマ画像/動画等の住空間撮影を行い、住民の経済状況や家族構成、個人の趣向や好み、創意工夫と民族ごとにもつ住まいに関する伝統的知識などから「我が家」の作り方が異なるさまを検証する。また、人びとが居住地域をどう捉えているのかイメージや評判を、人びとの語りから明らかにする。
- (2) 時空間マップソフトを利用したナイロビのスラム住民の移住過程の可視化
スラム住民に移住の過程についてインタビューをおこない、4K(高解像度)ビデオカメラによる撮影を行う。さらに、「時空間マップソフト」(特願2008-192562)を利用して住民の移住過程の視覚化を行う。
- (3) 研究成果のメディアアートのアプローチによる視覚化および展示
パノラマ映像によって居住空間をバーチャルに体験できるソフトウェアを開発する。また、時空間マップソフトをwebバージョンに移行させる。さらに、学会発表やケニアの研究者や建築家らとともにシンポジウムや展示を企画しながら研究成果を発表する。

4. 研究成果

【2016年度】

- (1) 時空間マップソフトを利用したナイロビのスラム住民の移住過程の可視化
キベラ、カワングワレ、マダレにおいて、対象者の移住過程についての聞き取り調査をおこなった。どのようなライフイベント(入学、卒業、結婚、離婚、就職など)のタイミングでどこに移住したのか、またその理由について、時系列順に明確になるようにお話を伺った。
- (2) ナイロビのスラムにおける住環境調査及びデジタルアーカイブ化
住民の暮らしぶりは、主に民族、宗教、立地条件、建材、住居の空間構造等の要因によって規定されている事実を踏まえ、ナイロビのキベラ、カンゲミ、カワングワレ、マダレ、ムクルにおいて、住民に対するインタビューをおこなった。このインタビューは前述の時空間マップ用のコンテンツとは差別化し、地域の生活のしやすさや、住み始めた理由、個人的な出来事などのプライベートな情報を聞き出した。また、360度の全方位パノラマ撮影が居住空間の記録に適していると考え、各家庭でインタビューの後に全ての部屋を撮影した。最終的には10組の住民にインタビューを行った。

【2017年度】

2016年度は複数の住民にインタビューを行ったが、2017年度は1名に絞って以下の4点に主眼を置いたインタビューおよび日常生活の撮影を試みた。

- (1) 住民Aのライフストーリー制作
住民Aが食材を購入し食事を作るシーンを撮影し、その背景にある地域の流通、近隣住民との関係等を分析および考察した。
住民Aの親子・兄弟姉妹・親戚関係をインタビューによって明らかにした。
住民Aが教会に参加する様子とそこで生まれる人間関係を撮影し、分析および考察した。
兄弟姉妹、勤務先の同僚に住民Aとの関係をインタビューした。
- (2) 住民Aの積極的な協力もあり、期間中に目標のシーンを全て撮影することができた。
- (3) 研究成果のメディアアートのアプローチによる視覚化および展示
上記の撮影と編集の結果として27分間のドキュメント映像を作成し、勤務先の大学内のギ

ギャラリーで展覧会をおこなった。本展示ではナイロビのスラム住民 A のみであったが、今後は日本やヨーロッパの事例も並置し、比較文化研究の成果として映像制作を継続する。

【2018 年度】

- (1) ナイロビのスラムにおける居住環境調査及びデジタルアーカイブ化
2018 年 8 月に、住民 A の住宅の各部屋を 360 度パノラマカメラで撮影し、インタビューも行った。ここでは、主に彼女と死去した父親との関係、父親に対する感情について掘り下げて質問した。その後、2018 年 3 月には住民 A のインタビューを継続した。このインタビューは特に「家族や友人との関係性」に絞って質問した。また、住民 A の長女、次女、妹に家族との関係性について質問することにより、住民 A を取り巻く人間関係を分析した。なお、前述の質問とは別に「一番幸福だと思った時期」や「最近見た夢」を聞き取ることによって、インタビュー対象者の人生観や深層心理を探る試みを行った。
- (2) 研究成果のメディアアートのアプローチによる視覚化および展示
2018 年 10 月に東京工芸大学のギャラリーで「コンパクトライフ・プロジェクト」を展示した。この中で、ナイロビ・スラムの住民 A の生活を記録したドキュメント映像は、2017 年に編集したものに 2018 年 8 月に撮影した映像を追加し再編集し、25 分程度の映像にした。また、ナイロビの映像と対比する形で、秩父の山間部で小屋を建築して生活する青年の生活を追ったドキュメント映像も併置した。映像はプロジェクター投影し、部屋を撮影した 360 度パノラマ写真は、タッチモニターを使用して、体験者が自由に操作して見ることができるようにした。

【2019 年度】

- (1) 地域住民のライフストーリー映像作成
住宅環境と居住者の幸福度の関係性を観察するため、2018 年から日本の事例として埼玉県在住の住民 B の生活の様子を継続して撮影しており、2019 年 5 月 3 日に結婚式の撮影を行った。ここでは、結婚式の運営状況や夫婦と家族・友人との関係性に主眼を置いて撮影し、彼らがどのようなコミュニティに守られているかを観察した。また、2019 年の 8 月から 9 月にかけて、スウェーデンのストックホルムのコレクティブハウスで生活する住民 C の生活環境の撮影を行った。撮影は次の点に主眼を置いた。1. 住民 C が他の住民と共同で食事を作るシーンを撮影し、その背景にある地域の流通、共同生活者との関係等を分析および考察した。2. 住民 C の親子・兄弟姉妹・親戚関係をインタビューによって明らかにした。3. 住民 C がコレクティブ・ハウスで参加する編み物クラスでの様子とそこで生まれる人間関係を撮影し、分析および考察した。
- (2) 研究成果のメディアアートのアプローチによる視覚化および展示
住民 B と住民 C の 27 分間程度のドキュメント映像を作成した。2020 年度以降に住民 A の映像と合わせて、比較文化研究の成果として映像インスタレーション作品としての展示を予定している。
- (3) 時空間マップソフトを利用したナイロビのスラム住民の移住過程の可視化
2014～2016 の間に大幅に PC のオペレーティングシステムの仕様が変わったため、時空間マップソフトのアップデートを一時保留した。開発時に使った 3D モデリング技術は OpenGL.framework だが、現在このフレームワークは非推奨で、Metal が推奨されている。また、ビデオの再生技術は QuickTime.framework が使われていたが、これも現在非推奨で、Apple は AVFoundation の使用を推奨している。2019 年度に再開したが、結果として今回のアップデートには時間を要した。よって、研究期間終了後も時空間マップソフトを利用したナイロビのスラム住民の移住過程の可視化を継続して行う予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「村落と都市の女性：ケニアの「ハウスガール」事情」
3. 学会等名 TUFSシネマトーク
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wakana SHIINO
2. 発表標題 The House girl by choice or the circumstances in Kenya and Uganda
3. 学会等名 International Symposium on “African Potentials and the Future of Humanity (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野口靖
2. 発表標題 民族誌的映像展示における鑑賞者の想像力喚起
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野口靖
2. 発表標題 ナイロビ・スラム住民の居住環境と生き方：コンパクト・ハウス・プロジェクトを通して
3. 学会等名 国際シンポジウム「急速に発展 / 変化をとげるアジア・アフリカ諸社会における経済格差、都市化、そして紛争経験後に直面する家族の変容」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 ナイロビのハウスガールが支える『家族』事情
3. 学会等名 国際シンポジウム「急速に発展／変化をとげるアジア・アフリカ諸社会における経済格差、都市化、そして紛争経験後に直面する家族の変容」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wakana SHIINO
2. 発表標題 The Maid-Elite Women Nexus: Strategies and Survival in Kenya and Uganda
3. 学会等名 Congress of International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 野口靖、椎野若菜編、福井幸太郎編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 190
3. 書名 マスメディアとフィールドワーカー	

1. 著者名 Shiino W, Shiraiishi S, Mpyangu CM (eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies.	5. 総ページ数 169
3. 書名 Diversification and Reorganization of 'Family' in Uganda and Kenya: A Cross-cultural Analysis	

1. 著者名 野口靖, 椎野若菜(編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 190
3. 書名 マスメディアとの交話, FENICS「100万人のフィールドワーカー」シリーズ	

1. 著者名 椎野若菜・澤柿教伸・野中健一編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 188
3. 書名 フィールドワークの安全対策 (FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ9)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	椎野 若菜 (SHIINO Wakana) (20431968)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	